

障害者支援施設 障害者福祉センター厚和寮

1 基本方針

障がいのある方に対し、快適な施設生活が送れるよう介護サービス提供の充実を図ると共に、地域や家庭での新たな生活に向けて安心して移行できるよう支援を行う。

また、在宅の障がい者に対しては安心安全な日中活動の場所を提供し、ケアマネジメントの手法を活用して社会リハビリテーションを中心とした各種サービスを提供し、地域生活に必要な社会生活力を高めると共に、地域資源との連携の中で自立と社会活動への参加を目指した支援を行う。

2 利用者の状況（令和4年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和3年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別									
					地域移行		家庭復帰	施設移管	契約解除(入院等)	死亡				
				GH	アパート等									
生活介護	60	72	7	13	0	0	0	9	2	2	13,301	82.4%	66	
施設入所支援	40	42	3	5	0	0	0	1	2	2	14,707	100.7%	40	
2年度	生活介護	60	68	8	4	0	0	0	3	1	0	13,392	83.0%	72
	施設入所支援	40	42	4	4	0	0	0	3	1	0	14,858	101.8%	42

（2）障害支援区分

①生活介護

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	1	20	14	8	4	47
女性	0	0	1	8	5	5	0	19
計	0	0	2	28	19	13	4	66

②施設入所支援

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	1	9	9	5	4	28
女性	0	0	0	6	3	3	0	12
計	0	0	1	15	12	8	4	40

3 事業の実施状況

（1）安定した経営をめざす

ア 昨年度と同程度の5名の退所があったが急な退所が多く、年度末現在の入所利用者は年度当初から2名減の40名となっている。また、年度当初入所待機者は37名(男性：24名、女性：13名)あったが現在の待機者は17名(男性：11名、女性：6名)となっている。

更に、入所案内をしても「今はまだ利用しない」とのことで調整が難航している。

通所利用者に関してはコロナ禍による外出不安等により、例年より多い8名の利用終了者があったが、新規利用者は4名に止まっている。年度当初登録者は30名(男性：22名、女性：8名)あったが、年度末現在の登録者は24名(男性：17名、女性：7名)となっている。より幅広く関係機関に情報を求めていく必要がある。

短期入所についても、コロナ禍の影響や、短い期間での利用が多かったため、目標稼働率を達成することは出来なかった。

本人情報の少ない中でも昨年度以上に鳥取市の緊急ショートへの依頼に対応し、地域の社会資源としての機能を発揮することが出来た。

- ・稼働率：生活介護 82.4%（目標 88%）、施設入所支援 100.7%（目標 102%）、短期入所 31.5%（50%）
- イ 建て替えに向け友愛寮と「合築・別運営方式」の検討を進めた。
現在の待機者状況や今後 50 年を見通し「統合合築」への検討を進めている。
福祉センター内における給食提供体制などの全体構想を踏まえながら、友愛寮及び事務局と情報共有し、次年度については計画の進展を図りたい。
- (2) ひとり一人の自己実現を目指したサービスの提供
 - ア カンファレンスを重視し、本人ニーズの引き出した、地域移行意識の醸成に努めたが、具体的に対応するグループホームに繋げることが出来なかった。
今後は不足する社会資源の整備にも働きかける必要がある。
 - イ 家族・利用者・職員アンケートを「サービス向上の宝」と捉え、真摯に向き合った。
 - ウ 互いの専門性を尊重し、チームケアを行った。
- (3) 地域共生の土壌作りに努める
 - ア コロナ禍により実習やボランティアの受け入れは最小限とした。それでも、鳥取湖陵高校の現場実習は必要性を鑑み、コロナの感染状況を睨みながら当初の予定回数を実施した。
 - イ 一昨年度始めた地区公民館事業による手話教室は、コロナ禍により実施出来なかった。
 - ウ 情報が少ない中でも、緊急利用案件には積極的に受け入れを行った。
- (4) 働きやすい職場作り
 - ア 勤怠管理システムを導入すると共に、職員同士の意識高揚でサービス残業禁止を徹底した。
 - イ 月初めに職員朝礼で「厚和寮倫理綱領」を唱和し、意識の徹底を図った。
 - ウ コロナ禍により、研修自体が少なく多くの機会はとれなかった。
 - エ コロナ禍ではあったが、感染状況の合間を縫って法人内相互派遣研修を実施した。
 - オ 法人 50 周年記念式典に於いて、実践報告を行った。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取湖陵高校(現場実習)	6-12月	6人	66人
鳥取社会福祉専門学校	11-12月	4人	20人
計		10人	86人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取湖陵高校、園芸セラピー [延べ 80 人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 6 名及び空床型

(2) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	19	681	22	706